

ジェフユナイテッド株式会社

- 所在地：〒260-0835 千葉県千葉市中央区川崎町 1-38
- 代表者：代表取締役 前田 英之
- 創業・設立：1991年6月11日
- 事業内容： サッカークラブの運営
- URL：<https://jefunited.co.jp/>



【取材対象者】
代表取締役 前田英之氏

【地域に愛されるクラブづくり】

サポーターの安心・安全を一番に考えるクラブ。

選手一人一人が成長し、ベストパフォーマンスができる環境づくりを目指す。

■御社の企業理念は？

「魅力あるクラブ」・「ホームタウンとともに歩むクラブ」・「自主自立経営のクラブ」が理念である。事業の中でこの理念を実現していくことが活力になっている。理念を実現することで地域の人たちにとってどのような意味があるか、また、チームの成績が良くなっていくのか、考えなければならない。この理念が企業においての最上位概念になっている。

■どのようなクラブを目指しているか？

ホームタウンである千葉市・市原市の方々にとって、地域の財産であり、地域になくてはならないと社会的に認知されるクラブでありたい。

そのため、どういう形で地域社会の発展に貢献していくのか、また地域に住んでいる人たち1人1人の「ここに住んでいる意味」に対して寄与できるか、考えたい。そして、地域にとってどう唯一無二の存在になるかを考えたい。このまちのクラブだから応援しよう、と思ってもらえるようなクラブを目指したい。千葉市民、市原市民であることが誇りと思えるコンテンツの1つとなりたい。心のよりどころとなるクラブになりたい。

■企業で求めている人材は？

クラブフロントの従業員に関して言えば、プロフットボール業界で働いている人は少なく、労働市場自体も小さいので雇用する枠も少ない。

経営的視点でいえば、1人1人が戦力になってもらわなければならないので「自分で考えて行動できる人間」を必要としている。

■代表にとっての「三方よし」とは？

・売り手よしは選手について。常に選手全員が週末の試合でベストパフォーマンスができるように、練習場などの環境を整えている。そして選手にジェフでプレーしたことで、成長できたと思ってもらえるようなチームでありたい。

・買い手よしはファン、サポーターへの配慮。ジェフでは、試合がない日の練習風景を間近で自由に見ることができ、練習後の選手と短い時間ではあるが写真撮影やサインをもらうことができるなど、たくさんのファンサービスをしている。

・世間よしは社会への配慮。千葉市・市原市の様々な施設に行き、直接選手と触れ合ってサッカーを楽しんでもらいたいという思いからサービスを行っている。他にも社会貢献のた

めに様々な活動を行っている。

■20歳の頃は何をしていたか？

18歳で山形から上京した。当時バブル期だったということもあり、大学に通いながらよく遊んでいた。

■20歳のころにしておけばよかったことは何か？

学生時代は勉強にあまり興味がなかったため、もう少し勉強しておけばよかった。大学の4年間はさまざまな情報に自由にアクセスできる時なので、その機会をもっと大切にしておけばよかった。そして、この分野だけはだれにも負けないという、生きていくうえでの基礎的な専門知識を一つでも多く身につけておけばよかった。

■現在20歳の自分達にアドバイス。

いま大学に通えているのは多くの方々を支えられてきたからだ。また、大学生は“子ども”と“大人”の狭間の世代でもある。そのため、恩返しをするためにも「4年で“子ども”を卒業するんだ。」という強い決意を持って日々生きて欲しい。そして、何事に対しても「考え抜く」ということを忘れないで欲しい。なぜかと

いうと、若いうちに考え抜く経験をしておかないと大人になってから、考えることから逃げる癖がついてしまうから。そのため、今のうちに様々なことに対して考え抜く経験をしてもらいたい。考え抜くことで物事の本質を見抜く。目で見えるもの、耳で聞こえるものなど、五感それぞれで捉えられるのは学生のうちだけだ。

社員にも「無知の知を大切に」と伝えている。無知の知とは、自分が何も知らないということを知りなさいというソクラテスの言葉。自分が見えているものは全体ではない、ということに気が付けるかどうかで差がついてくる。

■編集後記

◎古谷 和己

今回の前田代表へのインタビューをする以前より、ジェフユナイテッド株式会社様にすごく関心を持っていました。

インタビューでは、クラブのファンやサポーターをととても大切にしていることが強く伝わってきました。ファンの方が選手とたくさん交流できるような公開練習やサイン会など、さまざまな機会を設けておられ、これは少しでも選手に対して親近感をもってもらいたいという代表の思いを事業化したものであり、素晴らしいと感じました。また、ファンだけでなく地域の方々にも施設訪問やサッカー教室など、様々なサービスを提供していて、自社の選手やクラブのことだけでなく、周りの方々のことまでしっかり考えているのだということがわかりました。

今回のインタビューで聞いた話を今後の生活に生かせるように努力していきたいと思います。

このような機会を与えてくださった方々、本当にありがとうございました。

◎小倉 隼人

今回このような貴重な体験をさせていただき、私も今後の人生について改めて考えようと思いました。

前田代表はファンの方を大切にしておられます。単にファンサービスをしているだけではなく、ファンのためにいつでもベストパフォーマンスで試合ができるように努められています。何よりファンの方々の安全、安心が第一という考えにも感激しました。

もう一つ前田代表がおっしゃっていたことは無知の知についてであり、その深い意味が私の心に響きました。

今回は私たちにこのような機会を与えて下さり本当にありがとうございました。

◎佐藤 大介

今回前田代表にお話を聞き、プロスポーツビジネスはとても難しいとは思いますが、経営していく面白さもあるのかと感じました。私はスポーツビジネスには興味があったので、とても参考になりました。

J2の場合、年21試合しか自チームのスタジアムで試合をできないので、ファンとの日々の交流や付き合いとして、JRの駅にチラシを置いたり、ファンに練習を公開したりして、様々な工夫がされていると思いました。

私たちへのアドバイスで考え抜く力、本質を見抜く力を養って社会に出てほしいというアドバイスを忘れずにこれからの学生生活を過ごしていきます。ありがとうございました。



■敬愛大学経済学部経営学科粟屋教授より総評

スポーツはする側も見る側にも元気を生む。そうしたスポーツ観戦のビジネスというのは、他の産業とは異なるご苦労があるであろう。観客の皆様喜んでいただくためには、サッカーの試合をする選手が、快適にサッカーをすることができる環境にあることが肝要である。代表取締役 前田英之氏はそれらに配慮され、売り手よし、買い手よしを実現している。加えて同クラブチームが千葉にあることの存在意義の確立が世間よしである。カチカチと音がするほど緊張していた学生を、温かく優しく迎えてくださったことも、世間よし、の一つであろう。

考えるからこそ知りえる無知の知など、生きるに際して重要な事柄を教えてくださった前田代表、またスタッフの方々に感謝申し上げます。